

食育月間以外の取組実績

(食育月間を除く4月～12月の実績)

提出都道府県名	宮城県
取組市町村名	仙台市(泉区保健福祉センター家庭健康課)
取組の名称	若い世代を対象とした食育事業
取組内容	<p>【ねらい】 青年期の食生活は、欠食傾向や食への関心が薄れているという課題が見えており、学生自身も朝食や野菜を食べた方が健康にいいことはわかっていますが、金銭的・時間的な理由で実践には至っていないという現状が明らかになっています。 若い世代を対象に食べることの大切さを啓発し、食への関心や自分自身の健康について考える機会を作ることをねらいとしました。それと同時に、大学生自らが食育の啓発に取り組み、実践力を高める機会を提供しました。</p> <p>【日時】 平成28年10月22日(土)・23日(日) 両日10:00～14:30</p> <p>【場所】 東北生活文化大学</p> <p>【対象】 大学生や大学祭来場者</p> <p>【内容】 ○大学祭でのブース設営での啓発 ・朝食に関するクイズ ・学生が考案した「簡単朝ごはんレシピ」の配布 ・便利食材の展示 ・レシピや朝食に関するパネル展示 ・学生自身による「簡単朝ごはんレシピ」の実演と試食 ・大学生の食育プロジェクトでの塩エコリーフレットの啓発</p> <p>【参加人数】 132名</p>

食育月間以外の取組実績 (食育月間を除く 4月～12月の実績)

提出都道府県名	宮城県
取組市町村名	東松島市
取組の名称	働くママ応援企画「ママ、昼ごはんは自分で作れるよ！」
取組内容	<p>男女共同参画社会推進団体”サークルコロケ”主催(市共催)による子どもを対象とした料理教室の講師を市栄養士が行いました。</p> <p>母親の心身のケアと子どもの生活自立を目的とし、当日は、母親がヨガ体験、子どもたちが母親たちへ昼食を作り、調理を行う楽しさや母親への感謝の思いを込めながら調理を行っていました。</p> <p>メニューは、家庭でも簡単に作れるメニューを3品調理し、地元の食材(海苔、トマトなど)を使ったメニューに挑戦しました。特に主食では、海苔をはさんだ和風海苔サンドを作り、トッピングや味付けを母親のことを思いながらアレンジする子もいました。普段調理する子どもや包丁を持ったこともない子どももいましたが、包丁の持ち方やトマトの湯剥き、調味料を計量スプーンで量ったりと班のメンバーと協力しながら楽しそうに行っていました。また、実習中には母親が調理を見に来るプログラムを予定していましたが、「出来上がるまで楽しみにしてほしい」という子どもたちの声もあり、母親たちも見学をせずに昼食を楽しみにしていました。参加した子どもからは「お母さんに『昼食を作ってくれてありがとう』と言ってもらえたらうれしい」と話す子もおり、子どもたち自身も食べてもらえるのを楽しみにしている様子がうかがえました。</p> <p>試食では、自分たちが作った料理を説明しながら美味しそうに食べている親子の様子が見られました。参加者のアンケートからは「料理が作れたことに自信を持ってくれた。」「別々に楽しむのができ良かった。」との回答があり、母親もリラックスし、子どもたちも充実した体験ができていました。</p> <p>企画後には、参加した子どもへ取材を行い、石巻日々新聞にて実習をしたメニューのレシピを紹介してもらいました。休日にはマスターしたメニューを家族にふるまっているとのこと。</p> <p>働くママ応援企画「ママ、昼ごはんは自分で作れるよ！」 実施日:平成28年9月24日(土) 場所:東松島市コミュニティーセンター 参加者:親子10組21名 実施レシピ:和風海苔レタスサンド、鶏のさっぱり煮、トマトシェイク 参加団体:サークルコロケ、東松島市市民協働課・健康推進課</p>

食育月間以外の取組実績
(食育月間を除く 4月～12月の実績)

提出都道府県名	宮城県
取組市町村名	加美町
取組の名称	地場産給食統一献立の日
取組内容	<p>①実施日 平成28年11月24日</p> <p>②対象 私立幼稚園(こども園)、 公立保育所、幼稚園(こども園)、小学校、中学校</p> <p>③内容 町農林課が中心となり、食材納品業者(JA、地元生産者)や学校、子育て支援室、保健福祉課等が調整を図り、地場産食材使用率を向上させるための統一献立による給食提供を実施しました。児童生徒は、町の特産品や季節の食材を知り、安全安心な食材での給食について改めて学ぶ場面となっています。</p> <p>また、生産者の生の声取材し、リーフレットを通して生産に至るまでの苦労や思いを児童生徒に伝えることで、給食に多くの方が携わっていることを確認し、残さず感謝して頂いています。</p> <p>併せて、和食文化国民会議に協力を得、「和食の日」の啓発とし”天然だし”を使用したみそ汁での啓発を図りました。</p>

食育月間以外の取組実績

(食育月間を除く 4月～12月の実績)

提出都道府県名	宮城県
取組市町村名	
取組の名称	幼児を対象とした効果的な食育活動モデル事業
取組内容	<p>(宮城県東部保健福祉事務所の取組)</p> <p>①モデル事業検討会 2年間の取り組みを踏まえ、より幼児に効果的な事業内容や評価方法等について検討を行いました。</p> <p>②クッキングの実施～第1弾 さんま, 第2弾 鱈～ モデル事業実施保育所とみやぎ食育コーディネーターとの調整を図り、2回のクッキングを実施しました。(第1弾:62名, 第2弾63名)</p> <p>③事後カンファレンスの実施 クッキング及びクッキングに至るまでの幼児の変化について質的評価を行うため、モデル事業に関わったスタッフでカンファレンスを行いました。</p> <p>④事前・事後アンケートの実施 食育活動及び保育活動を連動したモデル事業の量的評価として、実施前後の保護者アンケート及び保育士向けアンケートを行いました。</p> <p>※取組の経緯 平成26年度のアンケート調査の結果、食育活動のイメージが、イベントの実施(芋ほり体験、田植え体験等)である保育所関係者が多かったことを受け、子ども達の成長・発達を促す効果的な食育活動には、毎日の給食で「いただきます」「ごちそうさまでした」の挨拶をする、「今日の給食は何かな?」といった探究心を引き出すなど、日々の保育活動そのものが重要な役割をもっているが、保育目標と食育目標を連動して取り組む保育所は見られなかった。 そこで、食を営む力の基礎を身につけた子ども達を増やすために、保育所の「食育活動量」や「食育活動の質」のアップを図ることを目標として平成26年度から実施している事業で、クッキングなどの前後の保育活動まで総合的に検討することで、保育目標・食育目標の双方を達成できるか、3年を区切りとして実施してきたもの。今年度は最終年度ということで、質的評価に加え、量的評価でも検討する予定である。</p>